

第15章 福島県立美術館

第1節 概要

1984年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての芸術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

本年度の美術館活動の概要は以下のとおりである。

・福島県博物館連絡協議会（理事）

第2節 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するため、コレクション（収蔵作品）の収集活動を継続的に行っている。

なお、本年度は4件13点の作品、及び資料を寄贈により収蔵する予定である。

1 美術館運営協議会

(1) 委員

- 久保 恵美子 福島県中学校教育研究会美術部総務
(平成15. 1. 1～)
松本 良子 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会員
(平成19. 1. 1～)
富田 孝志 財団法人福島県文化振興事業団理事長
(平成21. 1. 1～)
草野 拓郎 福島県市町村社会教育委員連絡協議会副会長
(平成23. 1. 1～)
酒井 昌之 福島県美術協会副会長
(平成19. 1. 1～)
佐々木 光政 日本放送協会福島放送局長
(平成21. 1. 1～)
遠藤 久美 蔵のまちアートぶらりー実行委員会事務局長
(平成21. 1. 1～)
雪山 行二 和歌山県立近代美術館長
(平成15. 1. 1～)
辻みどり 福島大学行政政策学類教授
(平成17. 1. 1～)
阿部 泰宏 公募
(平成15. 1. 1～)

(2) 協議会の開催

- ア 期日 平成24年3月2日（金）
イ 内容 ・運営協議会会長及び副会長の選出
・平成23年度事業実績の概要
・平成24年度事業計画案の概要
・県立美術館の運営等

1 収蔵作品点数(平成24年3月31日現在)

海外作品	431点	
日本画	292点	
洋画	471点	
版画	989点	
立体	85点	
工芸	152点	
書	37点	
素描・下絵	91点	
写真	363点	
計	2,911点	美術資料 29件

2 収集評価委員会

(1) 委員

- 原田 光 岩手県立美術館館長
(平成23. 12. 1～)
村田 真宏 愛知県美術館館長
(平成23. 12. 1～)
荒屋舗 透 ポーラ美術館館長
(平成23. 12. 1～)
三上 満良 宮城県美術館総括研究員
(平成23. 12. 1～)
佐々木 吉晴 いわき市立美術館副館長
(平成23. 12. 1～)

(2) 委員会の開催

- ア 期日 平成24年2月23日（木）
イ 内容 ・平成22年度収集作品の報告
・平成23年度収集候補作品について

3 平成23年度収蔵作品

(1) 美術作品及び美術資料の収集

国内・絵画 尾竹 越堂	1点
勝田 蕉琴	1点
国内・版画 辰野 登恵子	3点
堂本 尚郎	2点

2 他館等との連携

県内外の博物館施設及び全国組織等との連携を図り、運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体

- ・全国美術館会議 (理事)
・美術館連絡協議会 (理事)
・日本博物館協会 (会員)
・日本博物館協会東北支部 (会員)
・東北地区博物館協会 (会員)

国内・工芸	伊 砂 利 彦	5点
国内・資料	尾 竹 越 堂	1点
		計13点

(2) 図書資料の収集(平成24年2月13日現在)

収蔵図書数(震災に伴い登録図書見直し) 43,312冊

4 保存修復

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

(1) 虫菌害モニタリングと環境測定の実施

ア 時期

平成23年6月20日～7月4日と9月12日～9月29日の2回

イ 場所

収蔵庫、搬入口、展示室及びその他の館内

(2) 美術作品の修復

本年度は東日本大震災で被災した作品等83点(内、被災作品56点)を修復した。

ア 被災作品の修復

加守田章二、鈴木治、関根正二、斎藤清、エミリオ・グレコ等の作品56点を修復した。

イ その他の作品の修復

ベン・シャーンのポスター3点のヒンジどめによるブックマット装、及びベンシャーンの《マルテの手記》連作版画24点の額縁の改変、改造等を実施した。

第3節 展示事業

1 常設展

収蔵及び寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回(版画は年8回)展示替えを行っている。

常設展については、より多くの県民が利用できるように、無料観覧日を設けている。

(1) コレクション展

ア コレクション特集「ふるさと・祈り・再生」展

4月26日(火)～7月3日(日)

「ふるさとに帰る」：斎藤清『会津の冬』『地の幸』

　　ワイエス『松ぼっくり男爵』

「祈り」：関根正二『信仰』『風景』　岸田劉生『地』

「再生へ」：田渕安一『豊穣の樹』　上野泰郎『きのう・きょう・あした』など

イ コレクション展Ⅱ「なごみのひとときを」

7月23日(土)～10月16日(日)

大正の〈なごみ系〉日本画：小川芋錢『飲中八仙』『於

　　那羅合戦』　平福百穂『赤茄子と芋』

海外の名作：ワイエス『松ぼっくり男爵』　レジエ『サーカス』

空・宙・天ーそら：安藤栄作『約束のつばさ』

小林浩『星辰軌道』

斎藤清・歴史秘話ヒストリア：斎藤清『少女』『会津

　　の冬(御母堂)』『直子』

デッサンの魅力：関根正二『チューリップ』

鈴木新夫『働く人(A)』など

〈あそVIVA☆びじゅつかん〉 8月12日(金)～9月4日(日)

子どもたちが放射線量の低い美術館内で、安心して過ごせる「遊び場」を展示室に作った。会期中、作家らの協力により、ワークショップを行った。設営やガイドには、福島大学の学生ボランティアが参加した。(ボランティア参加18名)
入場者数1,536名

関連事業

ア Koi鯉アートのぼり&プレイルーム

8月12日(金)～9月4日(日)

企画 渡邊晃一氏(美術家)

協力 ブロンズ新社、GALLERY
　　はねうさぎ

イ ワークショップ「こどもオーケストラ」

8月12日(金)　講師 大友良英氏(音楽家)

参加者数 50名

ウ デイリリー・アート・サーカス

8月24日(水)～8月25日(木)

企画 開発好明氏(美術家)

参加者数 177名

エ トらやんの方舟プロジェクト

8月28日(日)　講師 ヤノベケンジ氏(美術家)

参加者数 50名

ウ コレクション展Ⅲ 10月22日(土)～1月31日(火)

河野保雄コレクション－新規寄託作品より－

日本美術院：下村觀山『寒空』　速水御舟『女二題』

大正の洋画：関根正二『一本杉の風景』

海外作品：ワイエス『ガニング・ロックス』　シャガール『死せる魂』

斎藤清の会津：『会津の冬』『稔りの会津』など

(2) 移動美術館

当館所蔵作品の一部を、県内の文化施設で公開展示する事業で、開催館との協働でテーマ、作品選定から実務までを行う。本年度は会津若松市で開催した。

展覧会名 「フランス美術名品展」

会 期 10月25日(火)～11月6日(日)

会 場 会津若松市文化センター

展示作品 コロー・モネ・ルノワールの油彩画、ルオーネ・ピカソ・レジエ・シャガールらの連作版画など58点

関連事業

ギャラリートーク

10月29日(土) 当館主任学芸員 吉村有子

参加者14名

アート・キューブによる子ども向けワークショップ
10月29日(土) 当館主任学芸員 吉村有子
参加者40名
観覧者数 2,818名(32日間 一日平均88.1名)

2 企画展

本年度は4回の企画展示を開催し、国内外の様々な文化を紹介した。

(1) スタジオジブリ・レイアウト展

会期 平成22年度 2月26日(土)～3月11日(金)
平成23年度 4月26日(火)～7月3日(日)
*3月12日(土)～4月25日(月)震災による中断
分野 絵画(素描)
展示数 1,300点
主催 同展実行委員会(当館・福島民友新聞社)
共催 福島中央テレビ
後援 県小学校長会・県中学校長会・県高等学校長協会
・県私立中学高等学校協会・県全私立幼稚園協会
・県PTA連合会・県文化振興事業団・県市長会・県
町村会・県商工会議所連合会・県商工会連合会・
読売新聞東京本社・Tenyテレビ新潟・宮城テレビ
・ふくしまFM
観覧料 一般・大学生1,200(1,000)円 中・高校生900
(700)円 小学生600(400)円 ※()は団体
観覧者数 74,378名(平成22年度8,831名 平成23年度65,547名)
概要

「風の谷のナウシカ」などで知られるスタジオジブリ映画の創作の秘密に迫る展覧会。日本テレビ、ジブリ美術館他の企画による全国巡回展で、福島民友新聞社との実行委員会方式によって開催した。

スタジオジブリは、高畠勲、宮崎駿両監督の作品を中心に、質の高いアニメーション映画を制作して国民的な人気を博している。本展では、ジブリ映画の制作過程において重要な位置を占める「レイアウト」と呼ばれる画稿を展示した。県内のみならず東北各地から熱心なジブリファンが訪れ大きな反応があつたが、駐車場不足や観客誘導など、今後に向けて課題も残したといえる。

なお、本展は3月11日発生の東日本大震災の影響により会期途中で臨時休館を余儀なくされたが、関係機関の協力により会期を延長して再開することとなった。

*震災前の会期 2月26日(土)～5月22日(日)
*震災後の会期 2月26日(土)～7月3日(日)

(2) 第35回全国高等学校総合文化祭「ふくしま総文」美術・工芸部門『全国高等学校美術展』

会期 8月3日(水)～8月7日(日)
分野 絵画 版画 彫刻 デザイン 工芸 映像等
展示数 410点

主催 文化庁・社団法人全国高等学校文化連盟
第35回全国高等学校総合文化祭福島県実行委員会

観覧料 無料
観覧者数 4,334名

関連事業(於:福島市国体記念体育馆)

講演・講評会

8月3日(水) 講師 クリエイティブディレクター
箭内道彦氏

交流会

8月4日(木) 「都道府県を『貼り絵』で表現してみよう」
福島県高等学校美術選抜展

8月3日(水)～8月5日(金)

概要

全国高等学校総合文化祭は、高校生の文化芸術活動の祭典として毎年開催されている「文化部のインターハイ」とも呼ばれる全国大会である。

当館は、美術・工芸部門『全国高等学校美術展』の会場として、各都道府県から推薦されたしなやかな感性と創造力で時代を捉えた高校生の作品400点あまりを展示了。

(3) がんばろう福島 生きる力・美の力展

会期 9月10日(土)～10月16日(日)
分野 絵画 版画
展示数 130点
主催 同展実行委員会(当館・いわき市立美術館・郡山市立美術館・喜多方市美術館・CCGA現代グラフィックアートセンター・諸橋近代美術館・NPO法人福島県立美術館協力会)
後援 福島民報社・福島民友新聞社・河北新報社・NHK福島放送局・福島テレビ・福島中央テレビ・福島放送・テレビユー福島・ラジオ福島・ふくしまFM
観覧料 一般・大学生600(500)円 高校生以下無料
観覧者数 2,633名
関連事業

ギャラリートーク「わが館のコレクション」

9月10日(土) CCGA現代グラフィックアートセンター長
木戸英行氏

諸橋近代美術館 学芸員 宗形敦子氏

9月17日(土) 郡山市立美術館 学芸員 中山恵理氏
当館 学芸課長 伊藤匡

10月1日(土) いわき市立美術館 学芸課長 平野明彦氏

概要

当県は、東日本大震災に加え、東京電力福島第一原発事故による放射能被害で厳しい状況にあるため、震災等に負けない当県の姿勢を内外に示し、復興に向けてがんばる県民の力になる事業が必要となった。そこで、県内の6つの美術館が

団結し、各美術館の所蔵するコレクションを持ち寄って、ひとつつの展覧会を開催し、県民に心の安らぎをもたらし、芸術作品との対話によって復興に向か活力にしていただいた。

(4) 帰ってきた江戸絵画 ニューオーリンズ ギッターコレクション展

会期 10月29日(土) ~ 12月4日(日)
分野 近世絵画
展示数 100点
主催 当館・NHK福島放送局・NHKプラネット東北
協賛 日本写真印刷
協力 日本航空 大洋工芸
制作協力 NHKプロモーション
観覧料 一般・大学生1,000(800)円 高校生600(480)円 小・中学生400(320)円
※()は団体
観覧者数 7,229名

関連事業

記念講演会
11月12日(土) 「ギッターコレクションにみる近世絵画の魅力」
田沢裕賀氏(東京国立博物館絵画・彫刻室長) 参加者100名

ギャラリートーク

11月5日(土) 当館主任学芸員 佐治ゆかり 参加者30名
11月19日(土) 当館主任学芸員 佐治ゆかり 参加者50名
11月26日(土) 当館主任学芸員 佐治ゆかり 参加者50名
12月3日(土) 当館主任学芸員 佐治ゆかり 参加者50名

コンサート

11月23日(水) 「鎮魂・平家物語弾き語り」
奏者 塩高和之氏(薩摩琵琶)
松尾彗氏(能管・篠笛)

聴衆者250名

概要

アメリカ・ニューオーリンズの医師カート・ギッターブ博士の所蔵する江戸絵画コレクションの中から、珠玉の100点を日本で初めて紹介する展覧会。禅宗の僧侶が描いた禅画を中心に円山応挙、伊藤若冲、曾我蕭白、俵屋宗達、酒井抱一ら江戸時代を代表する画家の優品を紹介した。

第4節 調査研究事業

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

本年度は県内の美術支援者と作家との関係調査を重点的に行なった。

第5節 普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、美術館への年賀状展、学校と連携しての出張実技講座を行っている。

1 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞のマナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

団体総数は102団体3,735人、そのうち解説を行ったのは50団体2,270人である。

2 鑑賞講座

(1) 館長特別講座

毎月1回 年間8回開催

〈近代の日本美術を語る〉

講師 酒井哲朗(当館館長)

5~1月(8月休講)

受講者 延べ72名

(2) キッズ・レクチャー

当館開発の美術観賞用教材〈アート・キューブ〉を使って、美術館コレクション展を楽しむ子ども対象の講座。

講師 当館主任学芸員 橋本淳也・吉村有子

「コレクション展をアート・キューブで楽しもう！」

7月23日(土) 参加者 小学生の親子7名

「移動展：美術ワークショップ」

10月29日(土) 参加者 小・中学生14名

3 実技教室

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術創作と鑑賞の理解を深める一助とする目的で、各種プログラムを実施している。

(1) 創作講座《みる・つくる・つなぐ》(文化庁ミュージアム活性化支援事業)

ア 「多色木版の制作～鑑賞と表現」

講師 古谷博子氏(木版画作家)

10月1日(土) 10月2日(日) 10月8日(土)

10月9日(日) 10月15日(土) 10月16日(日)

参加者 10名

示した。

イ 「日本画の技法～鑑賞と表現」

講師 清水 操氏（日本画家、日本美術院特待）
11月26日(土) 11月27日(日) 12月3日(土)
12月 4日(日) 12月10日(土) 12月11日(日)

参加者 7名

(2) 親と子の美術教室

ア 「絵をかいてアニメを作ろう！」

講師 小柳貴衛氏（東京工芸大学アニメーション
学科助教）

5月15日(日) 参加者 小学生とその親10組23名

イ 「水彩色鉛筆で描いてみよう！」

講師 安達純子氏（AJジュニアアートスクール
代表）

9月19日(月) 参加者 学生とその親4組9名

ウ 「木と光のパズル」

講師 古川英樹氏（日本おもちゃ会議会員）

12月23日(金) 参加者 小学生とその親4組9名

(3) わんぱくミュージアム

ア 「ビヨーンゅらゆら遊泳オモチャを作ろう！」

講師 久慈伸一（当館主任学芸員）
7月24日(日) 参加者 2名

イ 「オリジナル絵本をつくろう！」

講師 橋本淳也（当館主任学芸員）
8月21日(日) 参加者 5名

ウ 「版画で描く○○な動物」

講師 橋本淳也（当館主任学芸員）
1月29日(日) 参加者 5名

(4) 一日創作教室

ア 「偶然のカタチから紡ぐイメージ」

講師 久慈伸一（当館主任学芸員）
8月7日(日) 参加者 4名

イ 「既成のイメージを利用して描く」

講師 久慈伸一（当館主任学芸員）
11月20日(日) 参加者 1名

4 美術館への年賀状展

県内の小中学生から寄せられた手作り年賀状をすべてエン
トランスホールに展示した。

会 期 1月12日(木)～1月31日(火)

応 募 数 小学生 235枚、中学生 467枚、学年不明
その他 32枚 合計 734枚

*参考 2009年 505枚 2010年 617枚 2011年 723枚

観覧者数 586名

5 ルーマニアのこども達の応援メッセージ展

ルーマニアのこども達から、東日本大震災で被災した日
本のこども達を勇気づけるために寄せられた絵や手紙のメ
ッセージ255点を、8月27日(土)から12月27日(火)まで展

6 美術館・学校教育連携事業

(1) 美術館・学校教育連携協議会

県内の小・中・高校の教師と直接話し合う場を設け、学
校・美術館をとりまく現状や問題点を情報交換する中で継
続的な連携活動が展開できる密接な関係を築くことを目的
に開催している。

「先生」を対象として広く参加者を公募して開催する形式
で「先生のための美術館入門」を開催してきた。本年度の
開催は1回であったが、これまでの成果の1つとして「先
生と子どものための美術館ガイドブック」を刊行、鑑賞用
教材「アート・キューブ」を製作、及び「アート・キュ
ーブガイドブック」を刊行した。刊行物は、県内の小・中・
高校に配布した。

「先生のための美術館入門」

10月1日(土) 「生きる力・美の力」展

参加者 教員 4名

(2) 学校連携共同ワークショップ

協議会での学校からの要望をもとに平成15年度より開催
する連携事業で、子どもたちが作家と触れ合う生の機会と
して、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心と
した「出張ワークショップ」を開催している。この事業に
より相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通して子ども
たちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美
術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元をはかる。

本年度は開催希望のあった以下4校を対象に開催し、生
徒作品は1月12日(木)～1月31日(火)の期間、当館エ
ントランスホールに、活動中のスナップ写真とあわせて展
示した。

アーティストinスクール「光で遊ぶ～メディア・アート」

講師 松村泰三氏（東北芸術工科大学准教授、メディ
ア・アーティスト）

10月12日(水) 福島県立福島工業高等学校

情報電子科1年41名

10月21日(金) 大玉村立大玉中学校
美術部14名

11月12日(土) 福島県立会津学鳳中学校・高等学校
美術部12名

会津若松市立一箕中学校
美術部 5名

7 博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入れ、カリ
キュラムを組んで指導している。

8月23日(火)～8月28日(日)

実習生 11名

8 その他の事業

(1) 県立図書館との連携事業

「アートなおはなしかい」

内容

小学生とその保護者を対象にした、図書館での「絵本の読み聞かせ」と美術館常設展示室でのアート・キュークを使った鑑賞会

案内 橋本淳也・吉村有子(当館学芸員)

吉田久恵・安斎 薫(福島県立図書館司書)

11月3日(木) 参加者 17名

(2) 地域に学ぶ中学生体験活動

7月13日(水)～7月15日(金)

参加者 福島市立松陵中学校2年生1名

(3) 学生ボランティアの参加

〈あそVIVA☆びじゅつかん〉

8月12日(金)～9月4日(日) 参加者 福島大学学生18名

9 友の会、協力会との連携

(1) 友の会対象の鑑賞講座、ギャラリー・トーク

企画展ごとに各1回開催

(2) ミュージアム・コンサート

11月23日(水) 「鎮魂・平家物語弾き語り」

奏者 塩高和之氏(薩摩琵琶)

松尾 慧氏(能・篠笛)

聴衆者 250名

(3) 友の会対象の実技講座

ア 「スクラッチボードに描く」

講師 久慈伸一(当館主任学芸員)

9月24日(土)

参加者 7名

イ 「アクリル技法III」

講師 久家三夫氏(郡山女子短期大学部教授、春陽
会会員)

10月29日(土)～10月30日(日)

参加者 7名

第6節 災害復旧事業

平成23年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う東京電力
(株)福島第一原子力発電所の事故により被害を受けた建物等の復旧
及び敷地内の除染を実施した。

1 建物等の復旧

(1) エントランスホール屋根裏破損・落下

ア 玄関天井落下防止応急措置

H23.4.5～H23.4.21 53.0m²

イ 玄関ホール補修

H24.1.23～H24.3.22 45.8m²

(2) 落水池循環ろ過設備

平成24年度改修予定

ア 配管漏水改修(Φ200・250) 72.9m
イ フランジ歪み改修(Φ200・250) 56箇所

(3) 空調調和設備(排気設備)

平成24年度改修予定
排煙ダクト変形改修 4.6m²

(4) 外構

平成25年度改修予定
破損床石・境界ブロック等改修 1式

(5) 美術作品の修復

第2節、4、(2)、アのとおり

(6) 美術館・図書館庭園内芝生の除染

H24.1.18～H24.3.28 12,339m²

(7) その他

事務室等の床のヒビ割れ、書架の破損等被害多数。

2 常設展および企画展の見直し

震災後における災害復旧工事、および庭園内芝生の除染工事等により、臨時休館を余儀なくされ、常設展及び企画展の見直しを行った。

(1) 臨時休館

平成23年3月12日(土)～平成23年4月25日(月) 45日間
平成24年2月1日(水)～平成24年3月31日(月) 60日間

(2) 常設展

例年4回開催していたコレクション展を3回とした。

(3) 企画展

当初予定していた福島アートクラブ展、水のアート展及び横尾忠則展を取り止め、新たに「がんばろう福島生きる力・美の力」展を開催した。(第3節-2-(3)参照)